

未来へつなごう
小田原の森



おだわら森林ビジョン



prologue

• • • • • • • • • •

森林ビジョン発行にあたり

国土の約7割を森林が占める日本では、長年にわたり、森と人の暮らしが密接に関わってきました。森林から生産される木材を建築材料や燃料として利用したり、きのこや山菜などの食材を調達したり、人は森からさまざまな恵みを受けて生活しています。

このほかにも、雨水を蓄えきれいな水を育む水源のかん養、土砂災害や洪水などの災害防止、動植物の生息環境の提供、地球温暖化の緩和など、森林には私たちの暮らしを支えるさまざまな機能が備わっています。これを将来にわたって保持し、次世代につないでいくことは、私たちに課せられた重要な使命です。

「おだわら森林ビジョン」は、小田原の人々が森とともに豊かに生きる姿を想像しながら、次世代へ継承する森林の将来像を定め、その実現にむけた方向性や具体的な取組例を示したものです。一人でも多くの方が小田原の森に興味を持ち「森づくりの輪」が広がることを願い、本冊子では、その一部を分かりやすく紹介します。



1

安全・安心を守る森

森林は土砂災害から町を守り、おいしい水を供給する、生活に欠かせない存在です。市民の安全・安心な暮らしを守るため、健全な森づくりをめざします。



2

多様な生物を育む森

森林が身近にある環境は、市民にとっても暮らしやすい環境です。

さまざまな生物が生息する多種多様な森づくりをめざします。



小田原市がめざす森



3

ひとびとが交流する森

小田原の森の魅力を活発に発信し、都市部の住民や企業など多くの人が交流できる森づくりをめざします。



4

市民と一緒に作る森

森を維持するために大切なのは、市民に関心を持ってもらうこと。森林環境教育や小田原産木材の利活用を通じ、積極的に森と関わる機会をすることで協働した森づくりをめざします。



木や森のはたらき

木や森は、私たちの暮らしと密接な関わりがあります。
そのはたらきを学びましょう。

土砂災害を 防ぐ

地中にはりめぐらされた木の根が地面をしっかりと掴んでいることや、落ち葉や下草が地面を覆っていることで、土砂災害を防ぎます。

ひとびとの 心を癒す

木の香りに含まれる揮発性芳香物質の「フィトンチッド」には、ストレス軽減やリラクゼーション効果があります。



地球温暖化を防ぐ

木が光合成をすることにより、地球温暖化の主な原因となる二酸化炭素を吸収し酸素を作り出してくれます。

さまざまな命を育む

森に生息するさまざまな動植物の住処であり、栄養分をたっぷり含んだ水を川から海まで届け、海の生き物が元気に育つ環境づくりに役立っています。

持続可能な資源

森から伐り出された木材は、建築材や家具、木工品、燃料など、形を変え生活に余すことなく使えます。さらに木を植え、育てるサイクルで資源が再生できます。

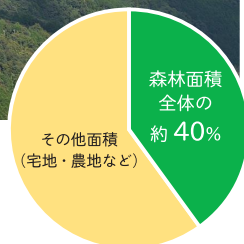
水をたくわえる

森の地面は、スポンジのような保水機能を持ち、雨水などを地中にたくわえて、ゆっくりと川に流してくれるので、洪水や渇水が緩和されています。



小田原の森の現況

森は健康な状態にあることで、そのはたらきが十分に機能します。
小田原の森の現状と、健康な森を維持するために対策が必要な課題の一部を紹介します。

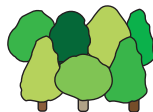


市の面積の約4割が森林

小田原市は、市域の約4割が森で、そのうちの7割ほどが、人の手によって植え育てられたスギやヒノキの「人工林」です。

手付かずの人工林

「人工林」は手入れが必要ですが、木材価格の低下などにより、山に関心を持つ人が少なくなったことで、手入れ不足の森林が増えています。



森や木に関わる人々の減少

城下町として栄えた小田原市には古くから木材産業を営む人々が多く生活していましたが、生活の変化や木材価格の低下などの影響を受けて、今ではその数も少なくなっています。

野生鳥獣などによる被害の増加

市内で発見されるニホンジカなどの数が増え、苗木を食べてしまうなど森林への被害が増えています。また、虫が原因で木の枯れや木材への被害も発生しています。



里山の荒廃と竹林の拡大

主に市の東部に広がる丘陵部は、一昔前まで薪の採取や農地として利用されていましたが、石油エネルギーへの転換や耕作放棄などにより、人の手が入らない里山や竹林が増えています。

小田原の森に関する取組

森を未来へと繋げるためには、なにが必要でしょうか。

それは私たち一人ひとりが、森に関心を持ち、森を知り、森と触れ合うこと。
森と私たちをつなぐ、小田原市のさまざまな取組を紹介します。

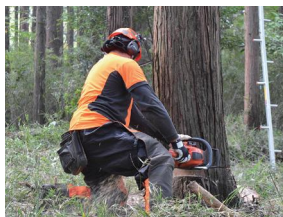
1 森を手入れする



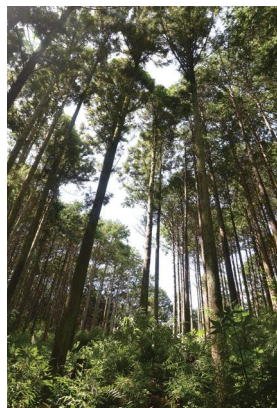
森を守り、育てています

豊かな森を育てるためには、さまざまな手入れが求められ、長い年月と多くの人手を必要とします。具体的には、木を植えるだけでなく、苗の成長を妨げる雑草などを刈る「下刈」や、木の成長を促すとともに、地面に光を届け下草を育てるために行う「間伐」、木材としての質を高め、虫食いなどの被害を抑える「枝打」などが挙げられます。

小田原市では、森のはたらきを維持していくため、神奈川県や森林組合などと連携を図りながら、森林を手入れしています。



間伐の様子



こもれびのさす小田原の森

2 ホンジカやイノシシとの共生をめざします



箱ワナにかかったイノシシ

近年急増しているニホンジカやイノシシによる被害が、森の生態系に大きな影響を与えています。対策として、捕獲や新しく苗を植えた場所に侵入防止柵を設置するなどの取組を進めています。

一方で、ニホンジカやイノシシは、貴重な食材(ジビエ)としての活用が期待されており、小田原市内でも食肉への加工や販売が始まっています。



市内で味わえるシカ肉料理

2 森の木を使う



木のぬくもりに包まれる小学校を作っています



感性豊かな時期にこそ木の良さに触れてほしいという願いから、林業や木材産業、建築に関わる人々と協力しながら、小田原の木材を活用した小学校の内装木質化を進めています。

木質化した学校では、児童を対象に小田原の木を使ったワークショップを行うなど、森の大切さを学ぶための教育にも取り組んでいます。

子どもたちや教職員、保護者、地域住民など、多くの人の目に触れる場所で小田原の木材を利用することにより、生活の中に木を取り入れる「木づかい」の精神を広げます。



職人の技術と工夫が注がれた学校空間

木のおもちゃを通して、子どもの感性を育てます

小田原市では、乳幼児期より木に触れた生活を通じ豊かな感性を育てるため、誕生祝い品として小田原の木材で作ったおもちゃを配布しています。

木を使ったおもちゃはシンプルな形状で、遊び方が多様です。子どもたちの想像力や表現力を育てるほか、独特のぬくもりを心地よく感じることができ、長く遊ぶことが可能とされています。このおもちゃは地元の木工職人が制作したもので、木工業が盛んな小田原の文化や伝統をいかした取組です。



なめても安心の
木のおもちゃ

3 森を知る



森と人を繋げるイベントを行っています



森に触れ、森に親しむ機会として、年に一度、小田原市いこいの森を

メイン会場に「きまつり」を開催しています。

森林についてやさしく学べる紙芝居や樹木の伐採見学、丸太を板や柱に加工する製材所の見学など、学びの要素を取り入れたプログラムのほか、ジップライン体験やジビエバーベキューなど、遊びや食がテーマの出店で、子どもから大人まで楽しめるイベントです。



香りや手触り、木の魅力に触れる

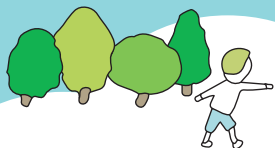
小田原の森と木を学びます



森を感じながら、森のお話を聞く

小田原の森林や木材に対する関心を高めてもらおうと、主に小学5年生を対象に森林環境教育を行っています。

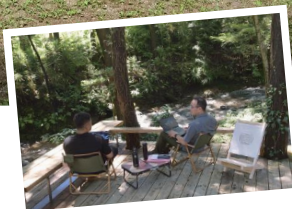
森のはたらきや木材利用の必要性などを伝えるほか、樹木の伐採や木工場の見学、職人たちとの交流、小田原の木材を使った箸づくりまでが一連のプログラムです。この取組により、小田原の森林を身近に感じ、かつ、森林や木材に関わる仕事やそこで働く人たちの想いを知ることによって、地域への愛着を深めます。



森と触れ合う



ODAWARA FOREST BASE



小田原フォレストベースで遊ぼう



小田原駅から3 kmの近さに広がる、非日常の森林空間。「小田原市いこいの森」、「小田原こどもの森公園わんぱくらんど」、「フォレストアドベンチャー・小田原」「辻村植物公園」の各施設が連携し、「小田原フォレストベース」として多様なアクティビティを提供しています。

キャンプやバーベキューのほか、森の中をマウンテンバイクで駆け巡るフォレストバイクやアスレチック、子ども向けの遊具など、家族でも友人同士のレジャーでも、さまざまな年代の方が幅広く楽しめます。

さらに仕事（ワーク）と休暇（バケーション）の両立をかなえるワーケーションスペースも新設されるなど、時代に対応した魅力ある屋外施設へと進化し続けています。

小田原フォレストベースの
情報はこちらから



身近にある木や森に興味湧いてきたら、実際に触れ合ってみましょう！
森への扉を開くレジャー施設や森林づくり体験などを紹介します。



森林づくりに参加してみよう



木々に触れ、自分の手で森づくりに参加できるボランティアの場があります。

公益社団法人かながわトラストみどり財団が主催する「県民参加の森づくり」では、神奈川県森林インストラクターの指導のもと、植林や草刈り、竹林整備などさまざまな体験ができます。未来の森に思いを馳せながら、森の息吹を感じてみませんか。



スギやヒノキを植林



森の大切さを伝えよう

小田原市では、森林・林業に関する知識を備え、その魅力を伝える「森のせんせい」を養成しています。

養成後は、市内小学校での森林環境教育や森林イベントに派遣をするなど、森林に関する普及啓発活動に携わる場を設けています。



“森のせんせい”として活躍する
堀口俊司さん



もともと森林環境整備や子どもたちの触れ合いに興味があり、養成講座の募集を知ってすぐに応募しました。

小学校での森林教室は、クラスごとに異なる雰囲気に合わせて授業に変化をつけ、興味を持って聞いてもらう工夫を凝らしています。校外学習では子どもたちと一緒に森林散策をすると、新たな発見がたくさんあるのも楽しみです。



森ではたらく馬に触れる馬搬体験





check



こちらの冊子は概要版です。
詳しくは右記 QR コードへ
アクセスしてください。
おだわら森林ビジョンの
全文をお読みいただけます。



おだわら森林ビジョン

発行 小田原市 経済部農政課 〒250-8555 神奈川県小田原市荻窪 300 tel 0465-33-1491
<https://www.city.odawara.kanagawa.jp/>